

JAPANESE ASSOCIATION
FOR CANCER DETECTION
AND DIAGNOSIS



Vol. 1
No. 2

特定非営利活動法人
日本がん検診・診断学会

<<<<< 目 次 >>>>>

第20回日本がん検診・診断学会総会のご報告	5
第21回日本がん検診・診断学会総会の開催にあたって	5
第6回日本がん検診・診断学会習熟講習会の開催にあたって	6
日本がん検診・診断学会 禁煙宣言について	7

第20回日本がん検診・診断学会総会のご報告

会長 池田徳彦 (東京医科大学外科学第一講座 主任教授)

平成24年7月14日(土)～15日(日)の2日間にわたって東京都新宿区東京医科大学病院にて第20回日本がん検診・診断学会総会を開催させていただきました。2日間で総来場者は約200人と多くの方にご参加いただき、会長といたしまして会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

第20回総会はメインテーマを「がん検診・診断学の新たな局面」とさせていただきました。検診で多くの早期癌が発見されることにより、新たな診断法や治療法の開発、発癌過程の研究などを通して、がん診療・研究全体が進歩することを願ってのことでした。また、一見検診と関係のない新しい技術、知見でも、それが検診に取り入れられて飛躍的に発展することなど、会員の皆様に出来る限り検診にこだわらずに幅広い知識、新しい発想をお持ちいただけるようにプログラムの構成を工夫したつもりであります。シンポジウムとして、代表的なご施設のメディカルツーリズムへの取り組みや消化器がん検診に関するCTコロングラフィー、カプセル内視鏡、メタボロームを利用した新たな検診など大変興味深く拝聴いたしました。また、肺がん領域においてもNLSTやPLCOの新たなエビデンスが出ましたので教育講演として、わかりやすく解説いただきました。またランチョンセミナーとしてPETの検診への応用やLiquid Based Cytologyなど標本作製の新技術に関する講演もお願いいたしました。各種がんの死亡減少効果、精度管理、行政的課題など毎年継続的に討議しなければならない内容に関しても再認識することも多く、実りあるセッションを持つことができました。学会として教育的かつ新規性のある情報を多く発信できましたのも、ひとえに金子理事長をはじめ学術委員、プログラム委員、演者の先生方のお力添えによるものと深く感謝しております。不行き届きの点も多々あったかと存じますが、どうかお許しくださいませ。会員の皆様に重ねて御礼申し上げ、私の御挨拶とさせていただきます。

第21回日本がん検診・診断学会総会の開催にあたって

会長 鈴木和浩 (群馬大学大学院医学系研究科泌尿器科学 教授)

この度、第21回日本がん検診・診断学会総会をお世話させていただくこととなりました。平成25年7月19日(金)、20日(土)の2日間、群馬県前橋市のテルサを会場として予定しております。本年、第20回総会を東京医科大学の池田徳彦教授が主催され、記念大会にふさわしいすばらしい学会でした。来年の総会は次の20年へのスタートとして、学術企画委員会の先生方とともにプログラムを検討しております。



私は腎泌尿器疾患予防医学研究会からの参加であり、この分野では前立腺癌検診について常にホットな議論がなされております。次回の総会でもこの話題を含め、各領域のがん検診・診断について多面的に議論したいと思えます。多数の先生方のご参加を期待しております。どうぞよろしく申し上げます。

第21回日本がん検診・診断学会総会日程

平成25年7月19日(金)

午前：諸会議

午後：オープニングセミナー(昼食あり)

「がんの画像診断のアップデート(仮題)」

群馬大学大学院医学系研究科放射線診断核医学 対馬義人 教授

特別講演・シンポジウム・一般演題

イブニングセミナー

「癌診断における糖鎖抗原の意義(仮題)」

弘前大学医学部泌尿器科 大山 力 教授

平成25年7月20日(土)

特別講演・シンポジウム・一般演題

ランチョンセミナー

「消化器癌の診断と治療の最前線(仮題)」

群馬大学大学院医学系研究科病態総合外科学 桑野博行 教授

*第2日目は並行してがん検診認定医講習を行います。

第6回日本がん検診・診断学会習熟講習会の開催にあたって

小川真広(認定医制度委員会委員長)

この度、がん検診認定医の方々およびがん検診に関わる医師を対象に、日本がん検診・診断学会習熟講習会を下記の要領で開催いたします。(これまで駿河台日本大学病院の講堂で行われておりましたが今回場所を変更しておりますのでご注意の程お願い申し上げます。)

今回も恒例により2名の講師をお招きし御講演を拝聴することになります。今回は、近年のがん検診の話題において切っても切り離せない医療経済のお話を植田和弘先生に、子宮がん検診、特にHPVワクチンのお話を野田起一郎先生に何う予定となっております。今回会員の皆様方のために御多忙中にもかかわらず両講師とも講演を快諾頂き会員共々非常に楽しみにしております。認定医資格を得られた方のみならず本学会会員・関連学会会員の皆様方には受講資格が与えられるため振るってのご参加をお待ちしております。

日時：2013年1月26日(土) 14:00～17:20(開場13:30)

会場：第一三共 日本橋ビル(東京都中央区日本橋3-14-10)

都営浅草線 日本橋駅 D1番出口 徒歩5分

都営浅草線 宝町駅 A2番出口 徒歩10分

東京メトロ 茅場町駅 6番出口 徒歩10分

東京駅 八重洲中央口 徒歩10分

受講料：5,000円(当日会場で徴収します)

講師：京都大学大学院経済学研究科長 植田和弘 教授

近畿大学名誉総長 野田起一郎 名誉教授

参加申込：学会ホームページ http://npo.jacdd.org/index.php?page=info_a04112 よりお申し込みください。

プログラム

- 14：00～14：05 開会挨拶
小川 眞広（認定医制度委員会委員長）
- 14：05～15：05 『がんの経済的損失』
植田 和弘（京都大学大学院経済学研究科長）
- 15：05～15：25 質疑応答
- 15：25～15：35 休憩
- 15：35～16：35 『子宮頸がんの予防医学』
野田 起一郎（近畿大学名誉総長）
- 16：35～16：50 質疑応答
- 16：50～17：20 総合討論

（※プログラムは一部変更することがあります。）

講師と講演内容のご紹介

植田 和弘 氏

がんの経済的損失はいったいいくらになるのか。これを知らなければ、我が国はがんの予防と治療にどれほどの財的資源を投入するべきかの判断ができない。植田先生は大阪大学工学部と京都大学経済学部を卒業され、若い頃「四万十川の景観の経済的価値はいくらか」という研究で学界にデビューされた。現在は我が国の電力事情の研究などで斯界に貢献しておられる。今回この講演のために、「がんの経済的損失」の問題に新しく挑戦して下さることになった。期待して拝聴したい。

野田 起一郎 氏

自身で開発された「宮城方式」による子宮がん検診普及に始まり、子宮頸がんの自然史解明を経て、大変なご尽力の末に2011年度から実現した国家負担によるHPVワクチンの対象者全員接種制度が成功したことにより、我が国の子宮頸がんの予防医学は1次予防・2次予防ともほぼ完璧に構築され、野田先生の生涯の夢も遂にゴールが目前となった。この機会に、本学会の創始者のお一人でもある、先生のご経験と哲学を縦横に語っていただく。

日本がん検診・診断学会 禁煙宣言について

第20回日本がん検診・診断学会総会において、本学会として「禁煙宣言」を出しましたので報告します。

健康に対する喫煙の害は呼吸器を中心に早くから知られており、1997年に日本呼吸器学会が「喫煙に関する勧告」として出したのが日本での禁煙宣言の始まりとされています。その後他の呼吸器関係、がん関係、循環器関係の学会が次つぎと宣言を出し、診断関係や検診関係の学会からは2007年には日本CT検診学会が、2009年には日本人間ドック学会が宣言しております。

本学会の宣言の特徴は、外部的には、あらゆるがん検診の場での禁煙指導を推奨することと、喫煙の害をあらゆる機会に発信すること、とともに、内部的にはすべての会員が喫煙しないこと、所属施設を禁煙にすること、学会の会議を全館禁煙の施設で行うよう努力することなど、内部的な目標を強調している点にあります。

禁煙宣言は出すことが目的ではなく、それを実践しなくては意味がありません。会員の皆様におかれましては、この禁煙宣言の精神をぜひご理解いただき、対外的な活動はもちろんのこと、喫煙されていらっしゃる方は一刻も早く禁煙するとともに、周囲も喫煙できない環境への整備をよろしく願いいたします。（文責：金子昌弘）



日本がん検診・診断学会 禁煙宣言

本学会の目的は、各種のがんに対する検診や診断技術・知識の向上普及を通じて、がん死亡の減少と健康寿命の延長に貢献することである。

一方喫煙は肺がん、喉頭がんの最大の原因であり、その他の臓器のがんにおいても少なからず発生率の上昇に寄与していることは明らかである。

検診の場を利用して禁煙活動を行うことによりがん死亡が減少すれば、これも検診の効果の一つと考えることができる。

以上から、本会は積極的に禁煙活動を行うことをここに宣言する。

1. 我々は、検診・診療の場を利用して、全ての喫煙者に対して禁煙を勧める。
2. 我々は、全会員が非喫煙者となることで、社会の規範となることを目指す。
3. 我々は、あらゆる機会を利用して、喫煙の害を社会及び行政、医学会に対して繰り返し訴える。
4. 我々は、所属あるいは関連する施設を完全に禁煙するように努力する。
5. 我々は、常に全館禁煙の施設で会議を開催するよう努力する。



編集後記

師走に入りいよいよ寒気到来となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？遅ればせながらメールマガジン Vol.1-2号を発刊いたします。

今回は、まず第20回総会の報告を会長の池田徳彦教授にお願いいたしました。「がん検診・診断学の新たな局面」をメインテーマに掲げられ、約200名の参加者による熱のこもった討論が連日なされておりました。いつも感じておりましたが、自分の専門分野以外の分野の凄まじい技術の進展に驚かされるとともに浅学を恥じ入るばかりであります。

また、第21回総会（平成25年7月19日・20日）会長の鈴木和浩教授には開催のお知らせをご執筆いただきました。次の20年へのスタートとしての学術集會を考慮されておられます。会員の皆様のご参加をお願いいたします。

日本がん検診・診断学会総会において、本学会としての「禁煙宣言」を発表いたしました。理事長が申されていますように、禁煙宣言は出すことが目的ではなく、実践しなくては意味がありません。会員の方々にはまだ喫煙されている方もいらっしゃると思いますが、是非ともこの機会に禁煙をお願いいたします。

広報渉外担当理事 森山光彦（日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野）

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会メールマガジン

2012年12月10日発行 Vol.1 No.2

〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F (株)クバプロ内

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会

編集発行：株式会社クバプロ

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

E-mail：npojimu@jacdd.org URL：http://npo.jacdd.org/